

平成19年度「産業社会と人間・産業理解」の取り組み

産業社会と人間・産業理解委員会

小林美智子 吉備豊 建元喜寿 本弓康之
金森雄大 工藤泰三 小澤真尚 岡 聖美
工藤雄司

要 旨 本校では「産業社会と人間・産業理解」を生徒の実態、社会のニーズに対応させるため、毎年授業内容を見直し充実させる取り組みを行っている。本年度の取り組みでは、特に生徒のキャリア発達を意識しながら授業を実施した。また、平成15年度の取り組みと本年度の取り組みを比較した結果、この授業の目的が継続的に達成されていることが確認できた。

キーワード 産業社会と人間・産業理解 キャリアプラン

1. はじめに

平成6年、総合学科のスタートと同時に原則履修科目として「産業社会と人間」の授業がスタートした。この科目は、「自己を知り、自己の生き方を探る。社会を知り、自己と社会との関係を知る。そして今学ぶべき学習を自分で選択すること」を目的としている。また、本校では平成12年度より「産業社会と人間」を補完する授業として、「産業理解」を研究開発した。この科目は、「産業と社会のかかわりや産業のしくみなどを学び、他者から自己への働きかけを促す」ことを目的にしている。本校では、この「産業社会と人間・産業理解」（以下では産社・産理と略す）において、生徒が正しい自己選択・自己決定ができるように促すことで、生徒のキャリア意識を確立させ、そのキャリア意識に根ざした学習（特に、本校で学習する科目選択）ができるように、この授業内容と授業形態を工夫している。

現在では、「産社・産理」を1年次4単位、「起業基礎」を2年次2単位、合計6単位を教科「産業」とし、本校のキャリア教育の根幹としている。

このような本校独自の教科「産業」の授業を通して、本校の生徒達は自分の適性、社会の組織、職業、学問と職業とのつながりなどを学び、さらに働くことの意義、喜び、生きがいなどについて深く考え、そして“自分の将来は”“今必要なこととは”“社会の中で生きていくということとは”と自分の考えを深めていく。これらの活動を通して、本校では高校生としてのキャリア意識が培われ、さらにキャリア発達がしっかりと達成されていくと考えている。

このような考えに基づき本校の「産社・産理」では、

総合学科のスタート時に設定した指導目標と全く変わることなく毎年実施している。しかし、キャリア教育の充実などの社会的要請、生徒の進路意識の変化、授業運営に関する経費の確保など「産社・産理」を取り巻く状況は常に変化している。そのため、本校では「産社・産理」の授業内容・授業形態等を毎年見直し、充実させる取り組みを行っている。

そこで、本年度の「産社・産理」の取り組みでは、

- ① キャリア発達を意識した授業展開
- ② 柔軟に対応できる年間計画の作成と実施
- ③ キャリアプランへの名称変更
- ④ 産業理解の充実

の4項目を重点的に考え年間計画（資料1）を作成し、実施した。

2. 本年度の取り組みと考察

① キャリア発達を意識した授業展開

高校一年生でのキャリア発達を意識した授業展開を考えるため、本年度の「産社・産理」では、毎年6月頃に実施している生徒に本校で学ぶ科目を仮に選択させる科目選択予備調査までに、適職・適学診断プログラム（R-CAP：リクルート社）、仕事体験型進路説明会などを実施し、さらに、筑波大見学等を早期に行うことで生徒のキャリア意識を高める活動を促した。

生徒の授業に対する満足度（資料2）によると、仕事体験型進路説明会や筑波大学見学等の満足度が比較的高いことから、本年度のキャリア発達を意識した取り組みが、生徒のキャリア形成にある程度影響していると考えられる。

② 柔軟に対応できる年間計画の作成と実施

福祉体験、交流会、講演など相手校や事業所等の都合により、日程調整が必要な授業は2学期の一定期間中にできるように調整し、産社・産理において重要な位置をしめる2年次以降の時間割作成指導に十分余裕が持てるように構成した。この効果により、生徒の時間割作成に対する教員の指導などの余裕が生まれた。

③ 「キャリアプラン」への名称変更

これまで「産社・産理」で継続している活動の中で「ライフプラン」がある。この「ライフプラン」の作成は、生徒に自分の将来の夢を実現させるためのプロセスを明確化させ、キャリア意識を高めることを目的としている。しかし、昨年度までの生徒の「ライフプラン」の一部に、「ライフプラン」を「一生(=死ぬまで)の計画」と捉え、「〇〇歳で結婚して、子どもを〇人持ち…」 「△△に別荘を構え、引退後は夫とともにそこで余生を送り…」 「××歳で▲▲の為死去」などと、自分のキャリア形成についてではなく、形成後のことについて多く述べる生徒が散見されていたからである。この「キャリアプラン」への名称変更の効果により、本年度の「キャリアプラン」作成では、生徒は自分の一生の計画を書くのではなく、ほぼ生徒全員が自分の将来の夢へのプロセスとしての「キャリアプラン」を作成することができた。

④ 「産業理解」の充実

本年度の新たな取り組みとして「現代社会を知る」という「産業理解」の単元を設けた。この授業では、「産社・産理」を担当する9人の教員がそれぞれの専門とする教科の立場から現代社会についてテーマをそれぞれ選び、講義するという形式をとった。また、この講義では、各教員の考え方や問題に対する教員の考え方の違いなどを直接生徒に伝えることによって、自分とは違う考え方もあることを教えることを目的として考えた。この授業は「産社・産理」のための予算をかけられないという事情もあり“内輪でのやりくり”の工夫の1つとしても考えた。

この9人の教員による授業では、本校の教員の持つ専門性やプレゼンテーション能力を活用することができ、生徒の満足度も高かった。このことから、外部からの講師などによる外的資源に頼るだけでなく、各教員の持つ能力を生かす内部資源の活用による「産社・産理」の授業展開も十分可能であることが確認できた。

3. アンケート結果と分析

本年度の産社・産理の取り組みについて、平成16年度に使用したアンケート項目をもとにアンケート調査を

行った。このアンケートは、どちらも5段階評価(5: そう思う~1: 全くそう思わない)の評価用紙を作成し、学年末の2月に実施した。

二つのアンケート結果を比較すると、自己を見つめ(図1)、自己を知り(図2)、自己と社会との関わりを知る(図3、図4)項目において、どの項目も多く生徒が肯定的にとらえている。これは、本校の「産社・産理」の指導目標が変わることなく、毎年取り組んでいることの現われであると考えられる。

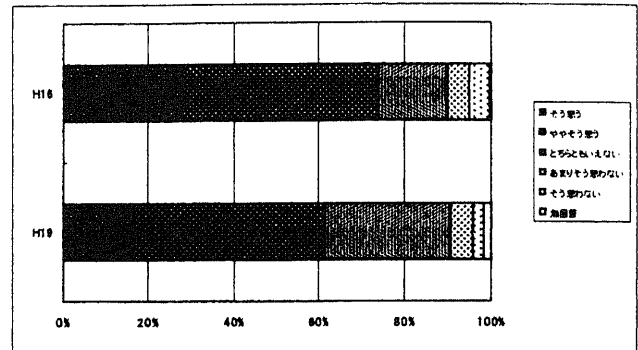


図1 自分をしっかりと見つめ直すことができたか

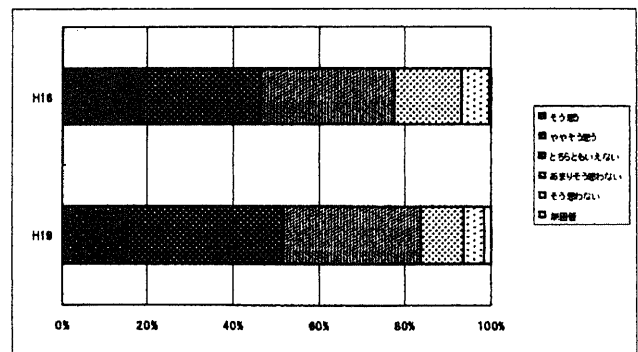


図2 新たな自分を発見することができたか

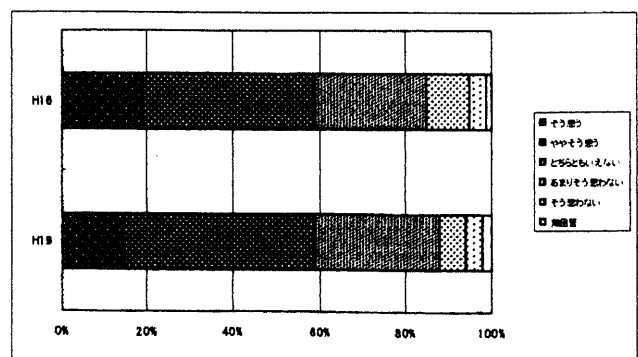


図3 自分以外の多くの人と助け合いながら生きていくことの意味を知ることができたか

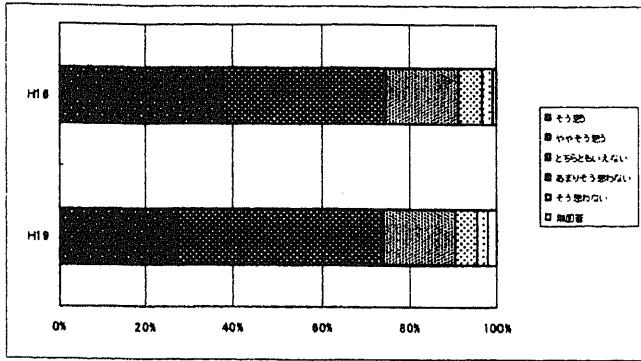


図4 生産すること・働くことの大切さや喜び、または苦勞を知り、働くことに対する興味関心が高まったか

また、本年度は、他者から自己への働きかけを中心とする産業理解を充実させたため、他人の意見に耳を傾けるようになったか(図5)の項目を比較すると肯定的な意見が高くなっている。

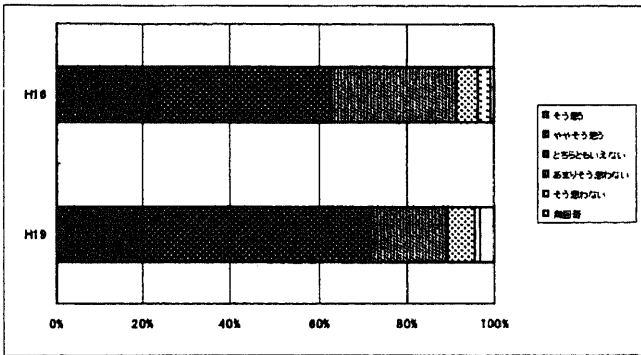


図5 他人の意見に耳を傾けるようになったか

さらに、生徒のキャリア発達に関連した項目を比較すると、大学への意識(図6)について肯定的な意見がほぼ変わらないものの、大学訪問等の時期を早めたことにより強い肯定的意見が増えたと考えられる。

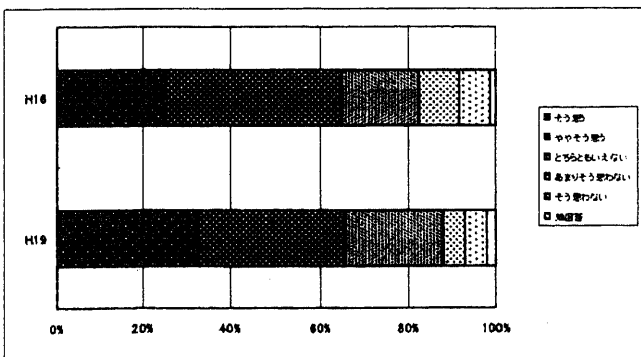


図6 筑波大学訪問や進路説明会・時間割作成などによって大学というものが身近なものになったか

しかし、総合学科の特徴である、自分の人生設計をみすえた時間割作成(図7)の項目では、H16と比較すると、肯定的な意見はほぼ変わらないものの、強い肯定的な意見について若干の低下が見られる。

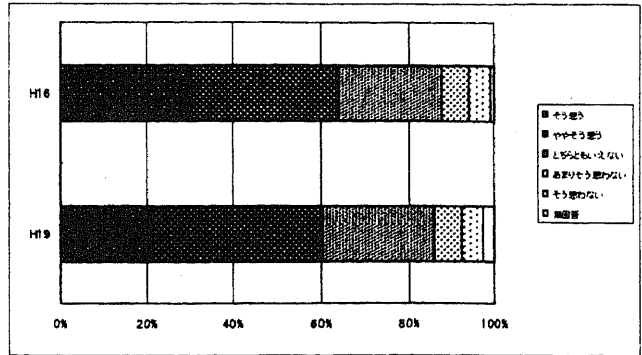


図7 自分の人生設計に前向きになり、希望の実現のために、自分だけの最良の時間割を作ることができたか

この傾向は、このアンケートと同時に実施した、生徒の進路意識変化についての調査(図8)を参考に考えると、本校に入学する生徒の進路意識が多様化していることを反映していると考えられる。そのため、生徒によって、高校入学前からの進路意識が低いために、産社・産理の時間だけでは自分の明確な人生設計を描きにくくなっているのではと考えられる。

高校入学前から進路を具体的に考えていて産社産理で進路が深まった生徒

35人(22%)

高校入学前から進路について考えていたが産社産理で進路がわからなくなった生徒

21人(13%)

高校入学まで進路について考えていなかったが産社産理で自分の進路をみつけた生徒

23人(15%)

高校入学まで進路について考えていなかったが産社産理で進路の方向性は見えただがまだ具体的ではない生徒

63人(40%)

全く進路の方向性の見えない生徒

16人(10%)

無回答

3人(2%)

図8 本校1年次生の進路意識の変化

4. 「産社・産理」の授業運営上の課題

「産社・産理」を運営していく上で、現在、本校では次のような課題を抱えている。

① 「産社」と「産理」のバランス

「産理」が「産社」の補完・強化する科目である以上、主役は「産社」である。しかし単位数が2単位ずつであるため、時間数に差が無いように考慮する必要がある。

② 柔軟な年間計画の作成

「産社・産理」の授業では、体験、交流、講演等の外部講師による授業・学校外での活動などの授業形態が多く、講演を依頼する方、交流先の学校、事業所等の都合を受け入れる必要があることから本校の授業ストーリーを変更せざるを得ない場合が生じたり、最初から融通性のあるスケジュールを考えたりする問題が生じる。すなわち、「産社・産理」の授業では年間計画の中に2パターン3パターンの授業展開の準備が必要となる。

③ 生徒実態の把握

一般的に総合学科で実施されている「産業社会と人間」の授業は、生徒の実態、地域性、人的資源などにより、学校ごとに特徴が強く表れる科目である。

本校の場合も、本校に入学する生徒の意識や能力、保護者の意識も常に変化している。そのわずかな変化を見逃さず「産社・産理」の授業に反映させることが重要である。最近の生徒は、すでに小学校、中学校においてキャリア教育（職場体験等）が実施されているので、従来の生徒と同じ「産社・産理」のプログラムではそのニーズに足りないことになる。しかし、進路意識変化の調査（図7）が示すように、そのキャリア発達は個人まちまちで、ユニバーサルな授業展開の開発が大変難しくなっている。

④ 社会的要請

生徒が2年次3年次と学習を重ね、成長していく中で、本年入学した生徒が3年後には、どのような能力を必要とされる社会となっているのかを見据えた計画も重要となる。本校生徒は2年次「総合的な学習の時間」での研究活動、「起業基礎」での7つの力育成、3年次での「卒業研究」において、問題発見と解決の能力、調べ、まとめる能力、プレゼンテーションの能力がしっかりと身に付く。しかし質問する力、討論する力が少し弱いように思われる。1年次で行なわれている「アカデメイア」において理論的思考と発言力をのばす取り組みがされているが、その効果が直ちに現れているかどうか判断が難しい。このような力はある授業だけの単発的な取り組みだけでは、効果を得にくいものである。1年次から討論する機会を多く設け、この力が効果的に身に付くような

授業展開を工夫する必要がある。この力は社会人としての基礎的能力である以上、教科「産業」の「産社・産理」での授業内容に組み入れて然るべきものである。例えば各単元での“振り返り授業”においても、ディスカッションを取り入れた授業展開や適切なテーマのもとでディベートを展開するなどの取り組みも今後必要になると考えられる。

5. おわりに

様々な変化に対応させるように本校の「産社・産理」では、毎年いくつかの新しい取り組みを実施し、それぞれ効果を挙げている。また、本校ではそれらの新しい取り組みを実施しているにもかかわらず、自分の適性、社会の組織、職業、学問と職業とのつながりなどを学び、さらに働くことの意義、喜び、生きがいなどを深く考え、自分の考えを深めていく「産社・産理」の目的がほぼ継続的に達成しているというのも本校の特徴である。

ただし、「産社・産理」を絶えず改善するためには多くの労力と経費が必要となり、本校の現有スタッフと現在の予算の中でうまく運営していこうとすると、「産社・産理」の授業の中で何かを削る必要がある。しかし本当に必要な教育内容を精選することを怠っては、進化した指導内容を開発することはできない。

生徒が多様化し、社会のニーズが常に変化している現在の総合学科を取り巻く状況は複雑化している。しかし、「産業社会と人間」の授業目的を確認しながら、常に改善していく努力を行うことは、総合学科において必要なことではないかと考える。

引用文献・参考文献

1. 筑波大学附属坂戸高等学校（2001）『「総合学科を創る」－生き生きと伸び伸びと学ぶ喜びを－』（学事出版）
2. 服部次郎編著（2003）『産業社会と人間 よりよき高校生活のために』（学事出版）
3. 服部次郎編著（2004）『産業社会と人間 実践の手引』（学事出版）
4. 筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要 第41集 2003 一年次教科「産業」の新たな取り組み
5. 筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要 第43集 2005 「産業理解」6年目の実践報告
6. 筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要 第44集 2006 平成18年度「産業社会と人間」「産業理解」の実践と評価

(資料1)

年間計画

	月	日	主 題	単 元	産社	産理	5時限	6時限	7時限
一 学 期	4		新しい出会いを楽しむ	コミュニケーションキャンプ	12		R-CAP①、働く人の話、		
	4	18	自己を見つめる	自分史をつくる①	3		自分史(多目的室)	自分史作成(各HR)	
	4	25		自分史をつくる②	3		自分史発表(各HR)		
	5	2	系列を知る	系列ガイダンス①	2		系列授業見学		
	5	9		系列ガイダンス②産業のしくみ①	2	1	R-capによる自己理解	系列ガイダンス①	
	5	23		系列(学校の学び)を知る	系列ガイダンス③産業のしくみ②	2	1	産業のしくみリレーション	系列ガイダンス②
	5	30	産業を知る	産業のしくみ③		3	職業、なるには調べ(仕事体験型進路説明会)		
	5	30	作物を育てることを知る	菜園体験	2		さつまいも定植		
	6	6	時間割をつくる	科目選択予備調査	3		入力説明、科目入力		
	6	13	大学(学問分野・親大学)を知る	筑波大学見学①		6	筑波大学見学(1日)		
	6	20		筑波大学見学②		3	振り返り(壁新聞制作)		
	6	27	社会を知る	1学期振り返り・職場体験指導①	2	1	1学期の振り返り	職場体験ガイダンス	
	7	11		講義①		2	吉武副学長による講義		
	7	18		職場体験指導②		2	職場体験事前指導		
7		職場体験指導③			3	職場体験			
8	27	東証・日銀			4	東証・日銀見学			
二 学 期	9	5	他者を知って自己を理解する	福祉体験①	3		講話①		
	9	12		福祉体験②	3		車椅子・アイマスク体験・講話②		
	9			交流会	3		日高養護学校 県立盲学校 大塚特別支援学校 網ヶ丘特別支援学校		
	9	19	社会を知る	職場体験ふりかえり		3	ポスター作成		
	10	3		講義②		3	筑波大教授による講義		
	10	17		環境と産業①		3	映画鑑賞(不都合な真実)		
	10	24	収穫の喜びを知る	菜園体験	1		さつまいも収穫		
	10	31	進路について考える	上級学校調べ	3		進路主宰講話	上級学校調べ	
	11	2		卒業研究系列発表会	3		3年次による卒業研究発表		
	11	7	自己を見つめ時間割をつくる	時間割とキャリアプラン①	3		学問と職業をつなげる分野別説明会		
11	14	時間割とキャリアプラン②		3		時間割・キャリアプラン作成①			
11	21	時間割とキャリアプラン③		3		時間割・キャリアプラン作成②			
三 学 期	12	5	自己を見つめ キャリアプランを作る	時間割入力キャリアプラン作成①	3		科目選択入力		
	12	12		キャリアプラン作成②	3		キャリアプラン作成		
	12	19		キャリアプラン(クラス発表)	3				
	1	23	社会を考える	現代社会を知る①		3	教員による講義①		
	1	30		現代社会を知る②		3	教員による講義②		
	2	6		現代社会を知る③		3	教員による講義③		
	2	13	自己をふりかえる	ふりかえり	2	1	1年間の産社・産理をふりかえる		
2	27	進路について考える	3年生の話聞く		3	4人の3年生による講話			

(資料2)

生徒の授業満足度

	5	4	3	2	1	無回答
コミュニケーションキャンプ	42.5%	33.8%	15.6%	5.0%	1.9%	1.3%
自分史作成	5.6%	30.6%	40.6%	15.0%	6.9%	1.3%
系列ガイダンス	43.8%	36.9%	13.8%	3.8%	0.6%	1.3%
産業の仕組み	9.4%	34.4%	41.3%	7.5%	6.3%	1.3%
菜園体験	39.4%	26.3%	34.4%	6.3%	6.3%	4.4%
仕事体験型進路説明会	40.0%	33.1%	19.4%	4.4%	1.9%	1.3%
筑波大学見学	49.4%	35.6%	8.1%	3.8%	1.3%	1.9%
副学長の講義	14.4%	31.9%	36.3%	10.6%	5.6%	1.3%
職場体験	45.6%	31.9%	11.9%	8.1%	1.3%	1.3%
上級学校バス見学	33.8%	25.0%	28.8%	7.5%	2.5%	2.5%
東証・日銀見学	22.5%	26.3%	34.4%	6.3%	6.3%	4.4%
福祉体験	24.4%	37.5%	24.4%	6.9%	1.3%	5.6%
交流会	35.6%	28.8%	19.4%	5.6%	5.6%	5.0%
筑波大学教授講義	21.3%	36.3%	25.6%	6.9%	4.4%	5.6%
環境と産業（環境ビデオ）	22.5%	33.8%	25.6%	9.4%	3.1%	5.6%
上級学校調べ	18.1%	36.9%	30.6%	7.5%	1.9%	5.0%
上級学校分野別進路説明会	26.3%	35.6%	23.8%	6.9%	1.3%	6.3%
卒業研究系列発表会	26.9%	33.1%	22.5%	6.3%	3.1%	8.1%
時間割・キャリアプラン	35.0%	30.6%	20.6%	6.9%	1.9%	5.0%
キャリアプラン発表会	21.3%	33.8%	26.9%	9.4%	3.8%	5.0%
現代社会について考える	39.4%	35.6%	16.9%	1.9%	1.3%	5.0%

5段階評価（「役立った」を「5」、「まあまあ役立った」を「4」、「どちらともいえない」を「3」、「あまり役立たなかった」を「2」、「まったく役立たなかった」を「1」）として評価用紙を作成した。

(資料3)

アンケート結果 (平成16年度・平成19年度比較)

		そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
自分をしっかりと見つめ直すことができた	H19	17%	44%	29%	5%	3%	2%
	H16	28.3%	45.9%	16.4%	5.0%	4.4%	0.6%
新たな自分を発見することができた	H19	15%	36%	33%	10%	4%	2%
	H16	18.2%	28.3%	31.4%	15.7%	6.3%	0.6%
自分以外の多くの人と助け合いながら生きていくことの意味を知ることができた	H19	14%	44%	29%	6%	4%	2%
	H16	19.0%	40.5%	26.6%	10.1%	3.8%	1.3%
生産すること・働くことの大切さや喜び、または苦勞を知り、働くことに対する興味関心が高まった。	H19	27%	47%	17%	5%	3%	2%
	H16	37.7%	37.1%	17.0%	5.7%	2.5%	0.6%
ボランティア活動に積極的に関わることができるようになった	H19	6%	13%	34%	23%	21%	3%
	H16	15.7%	25.2%	33.3%	17.6%	8.2%	0.6%
筑波大学訪問や進路説明会・時間割作成などによって、大学というものが身近なものになった。	H19	33%	33%	23%	5%	5%	2%
	H16	25.3%	40.5%	17.7%	9.5%	7.0%	1.3%
自分の人生設計に前向きになり、希望の実現のために、自分だけの最良の時間割を作ることができた。	H19	21%	39%	26%	6%	5%	3%
	H16	30.2%	34.0%	24.5%	6.3%	5.0%	0.6%
他人の意見に耳を傾けるようになった。	H19	20%	52%	18%	6%	1%	3%
	H16	23.3%	39.6%	28.9%	5.0%	3.1%	0.6%
主体的に学習や作業に取り組むようになった。	H19	7%	34%	41%	10%	6%	3%
	H16	13.2%	40.9%	30.8%	10.7%	4.4%	0.6%
ものごとに問題意識を持って取り組むようになった。	H19	6%	29%	48%	11%	4%	3%
	H16	8.3%	36.9%	40.1%	9.6%	4.5%	1.9%
自分の意見をじょうずにプレゼンテーションできるようになった。	H19	4%	16%	43%	23%	11%	3%
	H16	3.8%	20.1%	44.0%	21.4%	10.7%	0.6%
新聞やニュースなどを見るなど社会の中でできごとに関心をはらうようになった。	H19	14%	32%	31%	14%	7%	3%
	H16	20.1%	34.6%	27.7%	12.6%	5.0%	0.6%
社会にどのような産業や職業があるか知識が増え、関心が高まった	H19	25%	38%	29%	4%	1%	3%
	H16	24.5%	44.7%	20.8%	6.9%	3.1%	0.6%